



和歌山県
和歌山県
和歌山県

79
4038
3



明 79
號 4038
卷 3



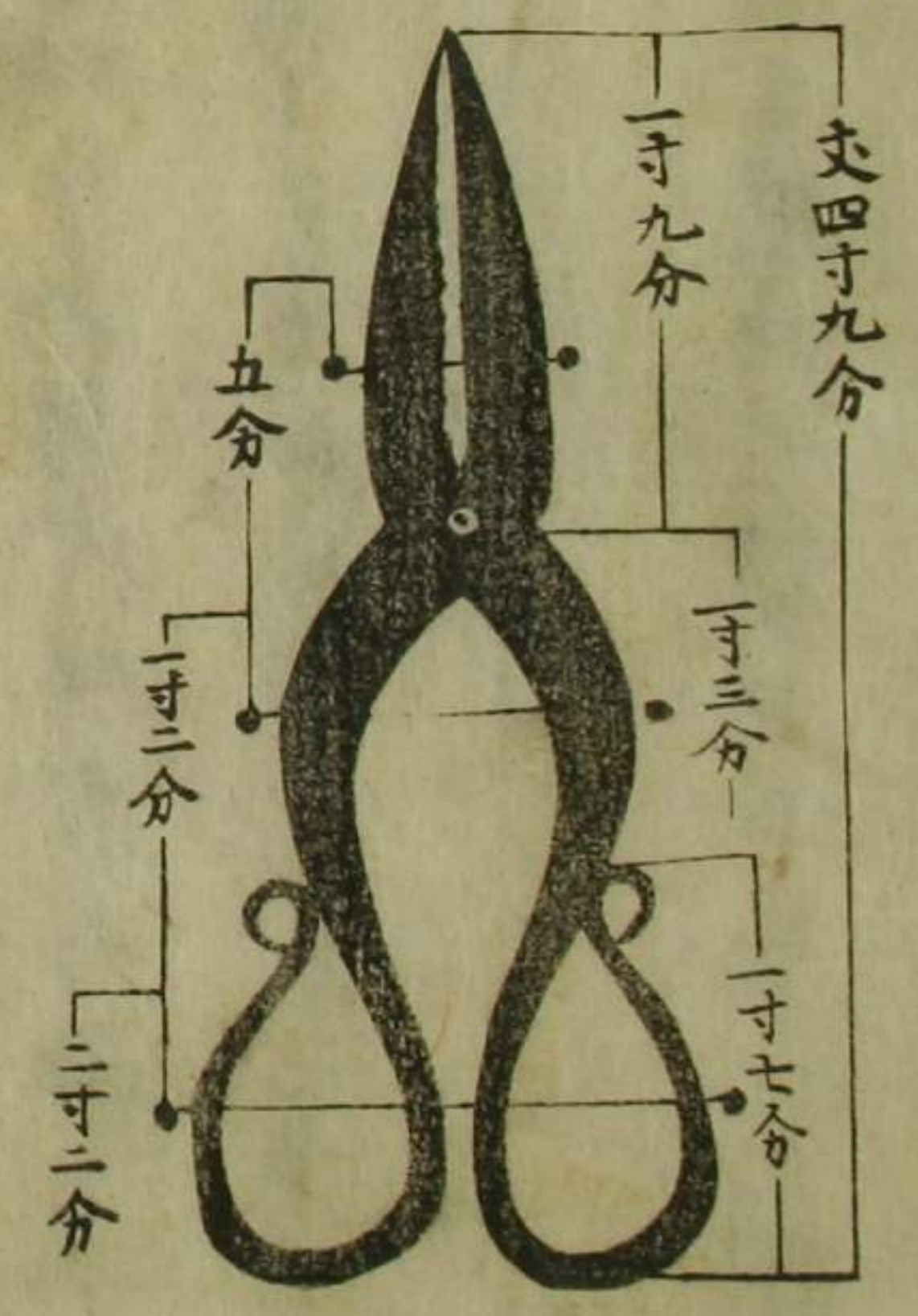
小篠掛婦糸

この婦糸糸付を叫^ツ字の付也叫字は付を以
て花渡は付を何れも寸糸を花蓋糸の渡の
付と云ふ也

○花蓋糸渡は寸付と云渡は又^多四寸九分信陽の寸
と之信小割各々陽は寸と云上寸九分中一寸三分下

昭和十六年一月十一日
尾野貴英氏贈

一寸七分とすも又上中下三腔は横の廣^ナを正中より上と
 五分よりして陽下と
 二寸二分よりして陰中と
 一寸二分よりして陰陽共
 成とて五行とす之



傳云花血病の使よこの寸法を用ふと秘事なり

陰陽五行之辨具是^カ乃理之協^カと云ふ
 渡系辨叫字の傳

○叫^ウ字を五行辨^ミ子之とて渡系辨は表形す
 上とそ寸^ツ細^ツ相形と具是するとのを叫字は五行の
 局^ツす也^ツの^ツ五辨具是花辨と建立するを
 叫字系辨の渡とて建立するを之を叫字と

和合し之を新を承りたる

を信陽和合の表形之也是也

付言深意何りあるくを

手談よ及む如き一は信

信よ云叫字を何叫合成字相之渡の用合を

何叫の音声少くも開く時を何合する時を叫



八

之何^アは力^{チカラ}形一叫^{ウシ}は力^{チカラ}

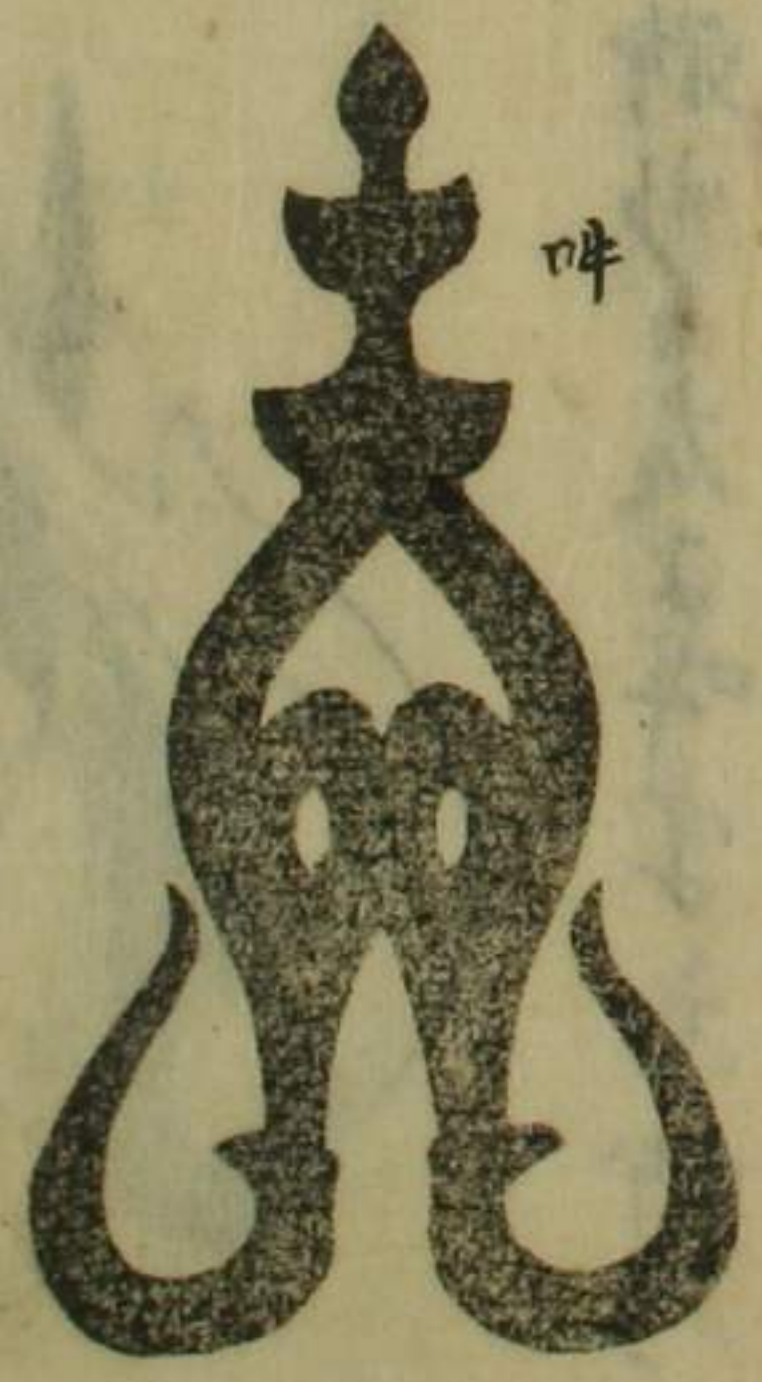
何^{ウシ}り叫^{ウシ}は力^{チカラ}をいふは

伐^{キリ}系とをいふは

何叫の音声渡は用合よ何るこしと

○信陽和合の叫字も新を五眼具足は新之又未

交心蓮の形之みの二形を渡は新に付合する



こしを五眼を天地性靈の五眼を多るる信陽

通の心五眼を多るる

心蓮を信陽合意の

形を多るる天地性靈

心蓮と多るる也

二形各々信陽和合の形神の左は叫字多るるの



(A)

渡の心傳ふ附合し多るる形神も多るる也

傳ふ云叫字を五行の

原し多るる天地万物の

主^{シユ}之^ウ情^{セツ}地^ホ情^{ロウ}衆^シ心^シく^ハも

叫^{セツ}字^シも^シ多^クる^ルも^シ多^クる^ルも^シ

形一のみ右は一枝一莖を五眼の心一と一花一葉を



心蓮花として各々を形を天地清く然る如く心
の神妙なりと人情の及ぶ如く守感す
る如く有り若世世人の情の正を貴く一蓮を
五凌と云く五行の叫字を信し自己の
邪正を如く精神の正海と云く一花の精
用を多る如く草木は生る如く心也

(十)

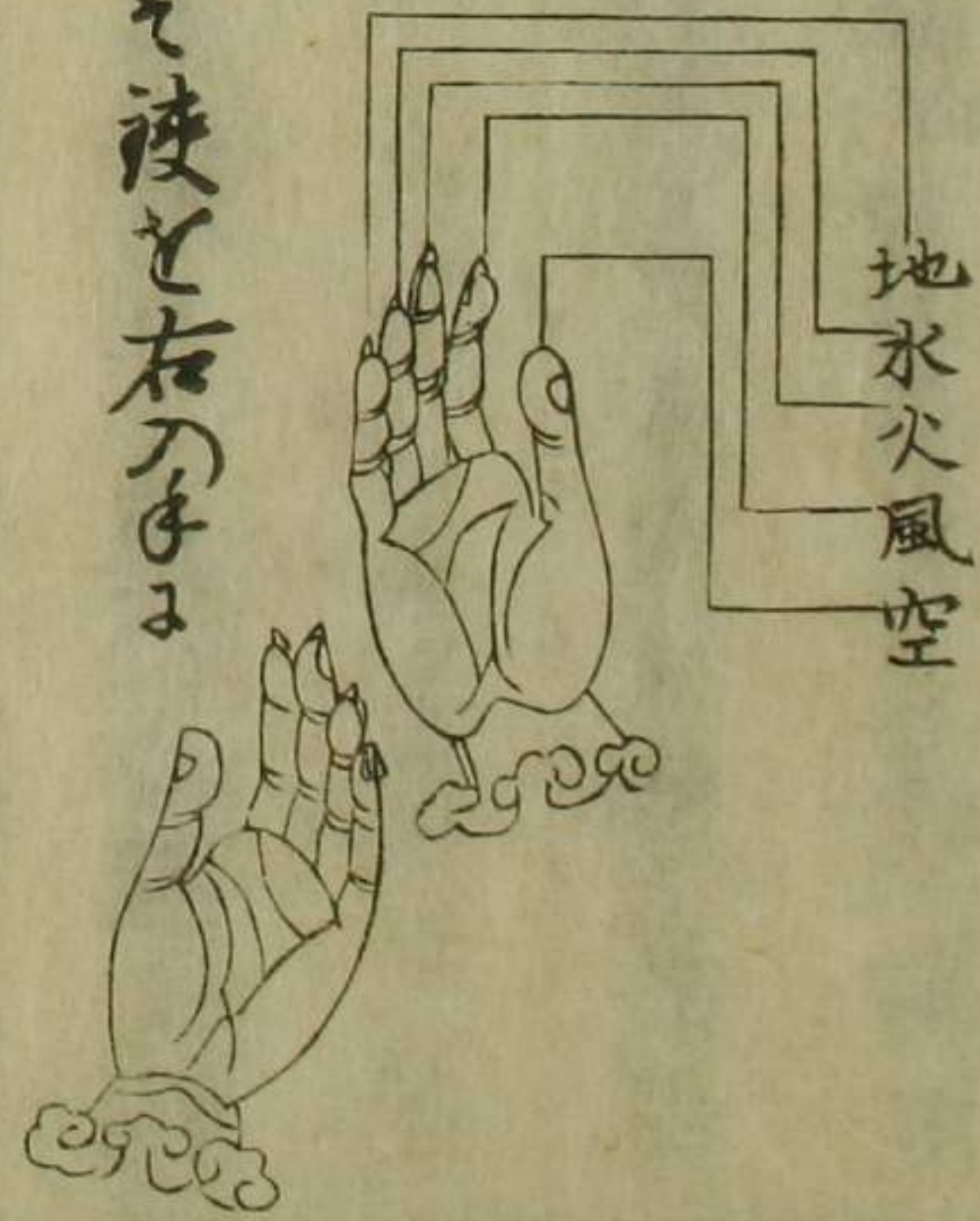
陰陽五行の形容を辨(す)く仇(た)む枝葉を伐捨
魚(う)す若くは如く人(に)花(を)用(ひ)る如く埋(も)り
守(も)りて一(は)枝(を)切(り)て八(は)系(を)分(け)て伐(り)て
如く魚(う)す天地の靈(れい)を如く是(こ)の如く改(か)む
如く又(また)花(を)生(は)る如く天地の神(かみ)を
建(た)てる如く如く如く如く如く如く如く

この美也重々口傳何道も電該子及ひ初巻一

花渡造標持傳

○左右十指各々地水火風空
識之是安信陽五行なり

花器よ而ひ花を生る時を渡と右の手を
持火風空持之指といふ用合す也一地水火風二指を



(1)

掌中^{タテコ}一^{ウチ}屈^{カク}入^{イレ}外^{ソト}一^{ヒラ}奪^{ヒラ}く^{ヒラ}魚^{ヒラ}寸^{ヒラ}花^{ヒラ}と^{ヒラ}握^{ヒラ}花^{ヒラ}器^{ヒラ}字^{ヒラ}移^{ヒラ}
寸^{ヒラ}明^{ヒラ}く^{ヒラ}渡^{ヒラ}と^{ヒラ}掌^{ヒラ}乃^{ヒラ}中^{ヒラ}は^{ヒラ}細^{ヒラ}め^{ヒラ}右^{ヒラ}膝^{ヒラ}の上^{ヒラ}は^{ヒラ}按^{ヒラ}し^{ヒラ}風^{ヒラ}
指^{ヒラ}を^{ヒラ}以^{ヒラ}て^{ヒラ}渡^{ヒラ}と^{ヒラ}度^{ヒラ}ふ^{ヒラ}下^{ヒラ}は^{ヒラ}臥^{ヒラ}魚^{ヒラ}右^{ヒラ}指^{ヒラ}乃^{ヒラ}握^{ヒラ}り
花^{ヒラ}を^{ヒラ}渡^{ヒラ}と^{ヒラ}下^{ヒラ}は^{ヒラ}臥^{ヒラ}し^{ヒラ}半^{ヒラ}く^{ヒラ}花^{ヒラ}と^{ヒラ}右^{ヒラ}乃^{ヒラ}手^{ヒラ}は^{ヒラ}後^{ヒラ}し^{ヒラ}茎^{ヒラ}乃^{ヒラ}
下^{ヒラ}は^{ヒラ}左^{ヒラ}乃^{ヒラ}手^{ヒラ}と^{ヒラ}流^{ヒラ}る^{ヒラ}器^{ヒラ}は^{ヒラ}移^{ヒラ}寸^{ヒラ}魚^{ヒラ}一^{ヒラ}花^{ヒラ}指^{ヒラ}乃^{ヒラ}握^{ヒラ}り
花^{ヒラ}を^{ヒラ}渡^{ヒラ}と^{ヒラ}下^{ヒラ}は^{ヒラ}臥^{ヒラ}し^{ヒラ}半^{ヒラ}く^{ヒラ}茎^{ヒラ}乃^{ヒラ}下^{ヒラ}は^{ヒラ}右^{ヒラ}乃^{ヒラ}手^{ヒラ}と

海より安んずる移す處一

○花を撮(采)りて移しそく、フタ毎ハ使を以て、枝葉を伐捨(刈)りて草木を天と地と母とて生し雨露ロよヤシキ云シはチヨ風持シ貝助チヨを以て成るすや風を物モリを何ソ守シゆキもワ地チにヨ中チ川チにヨ弱チにヨ何チもチ守チふチ友チよチ才チ木チよチ何チ事チのチ中チ枝チ葉チよチ何チ事チ守チふチ才チ木チのチ屈チ

キミ曲チ舒チ直チとチ攝チ南チ一チ中チ枝チ葉チよチ形チもチ攝チ也チ以チ於チ

攝南一也、チ屈曲舒直と天地の靈形なり、チ枝葉よチ以チてチ也チのチ屈曲舒直を天地の自然之のチ上チ自然チのチ智チをチ以チてチ移チしチ半チのチをチ亦チ天地の靈也、チ智チ帰チするチ花チ形チ形チのチ友チ身チハチ使チをチ以チてチ枝チ葉チをチ伐チしチをチおチ也チ是チ風チ持チをチ以チてチ使チをチ成チるチ下チにチ成チすチ

之又後を以てするを為すの意を以て資助を感
 して花と改^ア進^イを枝系を助^スくること也
 傳よ云屈曲を舒直よ智^イの舒直を屈曲よ
 智よ疎を枝系よ智^イを以て信陽好^イ働^イに智よ
 亦進よ亦^イ進よ枝系よの取^イ扱^イの取^イ扱^イめ^イこ^イ
 るし加^イさ^イる^イ標^イ肝^イ要^イ也

以上後乃傳早次よ去^イ行^イ草^イ花^イ枝^イ乃^イ傳^イ草^イ木^イ亦^イ生^イ
 信陽好^イ傳^イ性^イ精^イ乃^イ端^イ作^イ相^イ用^イ之^イ文^イ好^イ傳^イを^イ阿^イし^イ寸^イ
 是^イ小^イ篠^イ乃^イ派^イ系^イ不^イし^イ之^イ婦^イ半^イ系^イ傳^イ乃^イ要^イ事^イり^イ亦^イ月^イ
 之^イ寸^イ也^イ傳^イを^イ辨^イ寸^イ
 草木信陽亦生中傳
 ○草^イ是^イ性^イを^イ強^イく^イ精^イを^イ弱^イた^イる^イ也^イ友^イは^イ花^イ枝^イ系^イ也^イ

又弱に深也木造より月信原す也此より生花
 光精を以て種とす也一の原より柔弱なるを信よ
 原す原より草光より飛柔なる深形をハ信原す生
 乃との呼也尤草精内にも信陽ありあ中より生す
 光信^{コウレイ}嶺より生すも陽之又花形より信陽あり四六
 八光信花七五三を陽花之信

○木光性を弱く精を強にすの也此より月信陽
 子原す也又木精内にも信陽あり花精葩陽散
 其ハ陽花信散形をハ信花之原より生す也
 信より草木より精より月信^キ信^キを以て生花の
 而論也株^カと伐^{キリ}離^カし其後を信中の陽の原を以て
 生すトと深意を以てあしきも信

性精妙論

○性セウとはキに分レ以テ中ニもレ分レるレ物ノ靈イ見カク之ノ性ノ
 性ノ等キ質ニ性ノ亦コトナ具ス也ノ性ノ天ノ性ノ性ノ等キ質ニ
 性ノ靈イ見カク之ノ等キ質ノ性ノ精ニ之ノ精ニ之ノ精ニ
 系物ノ自レ化シ形ヲ取ル也ノ子ト也ノ日ト也ノ以テ味ヲ
ニテノワ
ツカサト
 子ト也ノ自レ化シ形ヲ取ル也ノ子ト也ノ日ト也ノ以テ味ヲ

體相用之大妙傳

○體大體ノ性ノ性ノ等キ質ノ形ノ取ル也ノ子ト也ノ日ト也ノ以テ味ヲ
 必寸體ト也ノ也ノ
 ○相大ノ相ノ系物各々相形コトナル具ス也ノ是ノ相ノ也ノ
 ○用大ノ用ノ大ノ人ノ體ト也ノ子ト也ノ日ト也ノ以テ味ヲ
 傳ト云フ之ノ體相用ノ文ノ系物ノ根本ノ信陽ノ五行ノ

是一切の法め法界法性實際等法理を拵するよ拵せ
 ざるよ拵し訶^カを一切内外大小指實際秘密等の法を
 拵するよ拵せざるよ拵し汗^アを一切法行之乘五乘等
 法行を拵するよ拵せざるよ拵し摩^マを一切の果法を
 拵するよ拵せざるよ拵し理^リを盡く拵し事^ジを悉
 く拵するよ拵し惣拵^{ソウソウ}を名付るや又通相^{ツウソウ}を以てする

各々^{ツク}の理法行果等を拵しざる拵せざるよ拵し盡
 さざるよ拵し一切の法理悉くする成就せり又伏義
 法^{リツギ}六支の^{リツギ}一々法支中各々万像を具するや
 又云一切法法を何字の用や一方法心を翻字の
 用や各各法法を汗字の用や各各法法を摩
 字の用や之界は種々拵法有りといふも此は

味字乃源意より何れよりなるを彫一削しそ花は
 付る高と源意何り行す也一崇む一
 去行車花辨書生傳

この其の車花辨と云ふ字は点畫を以て枝
 葉より記す一も花辨を因す^ス根秘傳何事とも
 奥義持花^ス因^ス何事とも^ス因式を署する何り

花乃源原花門社を小竹條の奥義
 を抄りて識得寸盈一

○のみ車乃
 花辨を崩す
 ころ片辨の形も五辨も
 各々皮肉骨を具是して欠るるを本辨具足持義也



花辨各々五輪而成此辨小一七叫字は多新之みの叫字
 其の草三辨をいふ少一七叫字は



○以河の花辨も
 五辨田成此辨は各々皮肉骨を具足して五輪也

(三)

成すも但一ふ力花辨を五輪の内五輪を半辨之は
 子付ては傳ふ



○このまゝ
 花辨も本辨の
 五輪を具足するも但一五輪の内地大を半辨之は

付々秘傳也

○其行草花辨傳を其のも行草の草中も各々其の
行草有りとも九品の花辨の傳何處にも草中亦
亦主と累する也。其の圖一書をも味字辨傳を以て
五輪而成の花圖也。其の傳も一花辨用通例の行草
辨傳と云ふ也。

(三)

○傳相用を以て其行草と云ふ事傳云草の
辨を花辨傳中二分指を振りて之を月辨おしと云ふ
花形辨表を二ツ二ツ半見ると也。行辨辨を字中分指
を振りて八月辨月辨辨之花形の表を二ツ二ツ見ると也
其の辨を字中辨いと云ふ也。其の辨を九分辨おしと云ふ也。
其の辨を字中辨いと云ふ也。其の辨を九分辨おしと云ふ也。

以上より草花形は傳年次は花盒は形席生の
 式をあるや、その式ありは師説なり傳ありといふも
 區々小く定すすよ、川口町、川口社、川口社の
 師説は傳を附録す。その也

(主)

花包成市打標傳

○花包花盒の形を客

子花を包む形

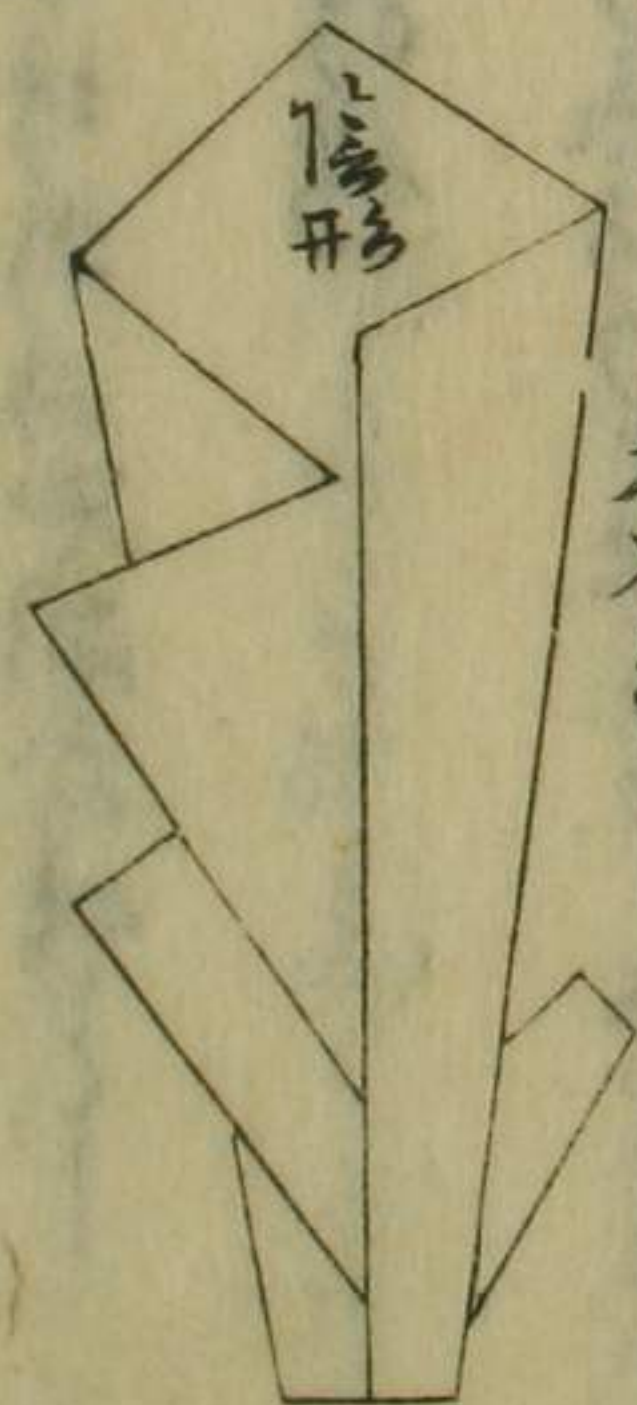
花を包む形

花を包む形

花を包む形



草の花



木の花

○この折形は信持折形偏乃折形と信持折形とを本
 持花と包陽持折形とを兼持花を包む之折形の
 傳子云信を右より左へ折付之陽を左より右に折
 付る也此亦信保各々持折形也圖式持し
 花盒持布巾折縁持傳

○布巾の折形は包し持折縁のりともなるも大



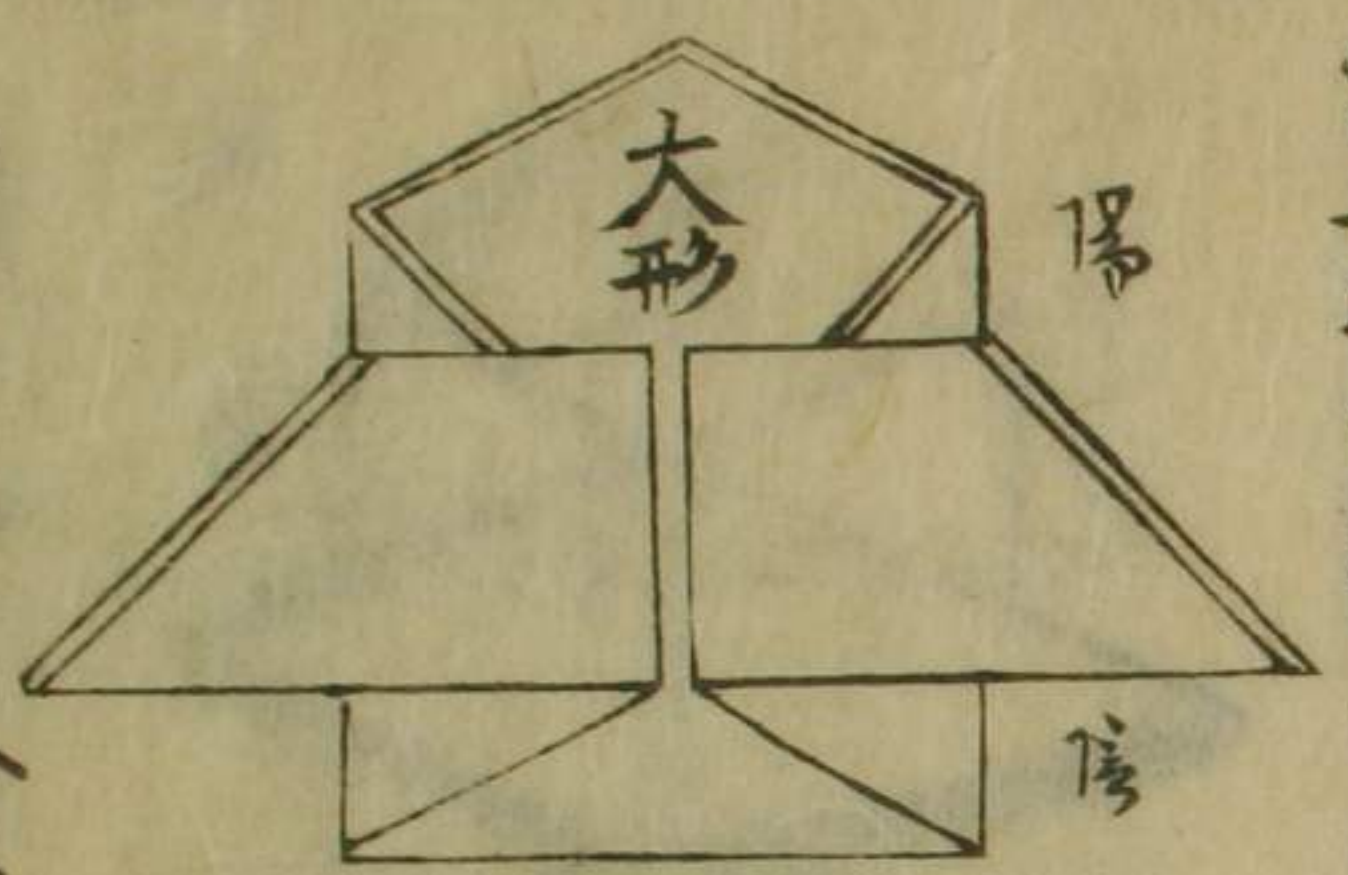
中小の二点を圍寸り也此を花盒と大中小より大は
 大中と中小と小と定め事之也是とも持是とも持事
 上と下大と中を用む小を用む中と大を用む小を
 用む或は小と大を用む中を用む何處を何處に用
 むとも若し初寸二角小持折形を常例に用申る
 折形也此とも花盒を二組三組も持り是折を花盒

持大中子構寸折形の長寸を可寸と寸寸同寸大子
 大中子中子小子と片寸を寸を何寸

○大中子折形を寸寸信陽の折形之四角子成寸を信陰
之角子成寸を陽也信陰を寸寸寸

○大形折折極を四角の隅より隅を大之角子折上の
 角より下一字を定めた右を各々四子割中折割を

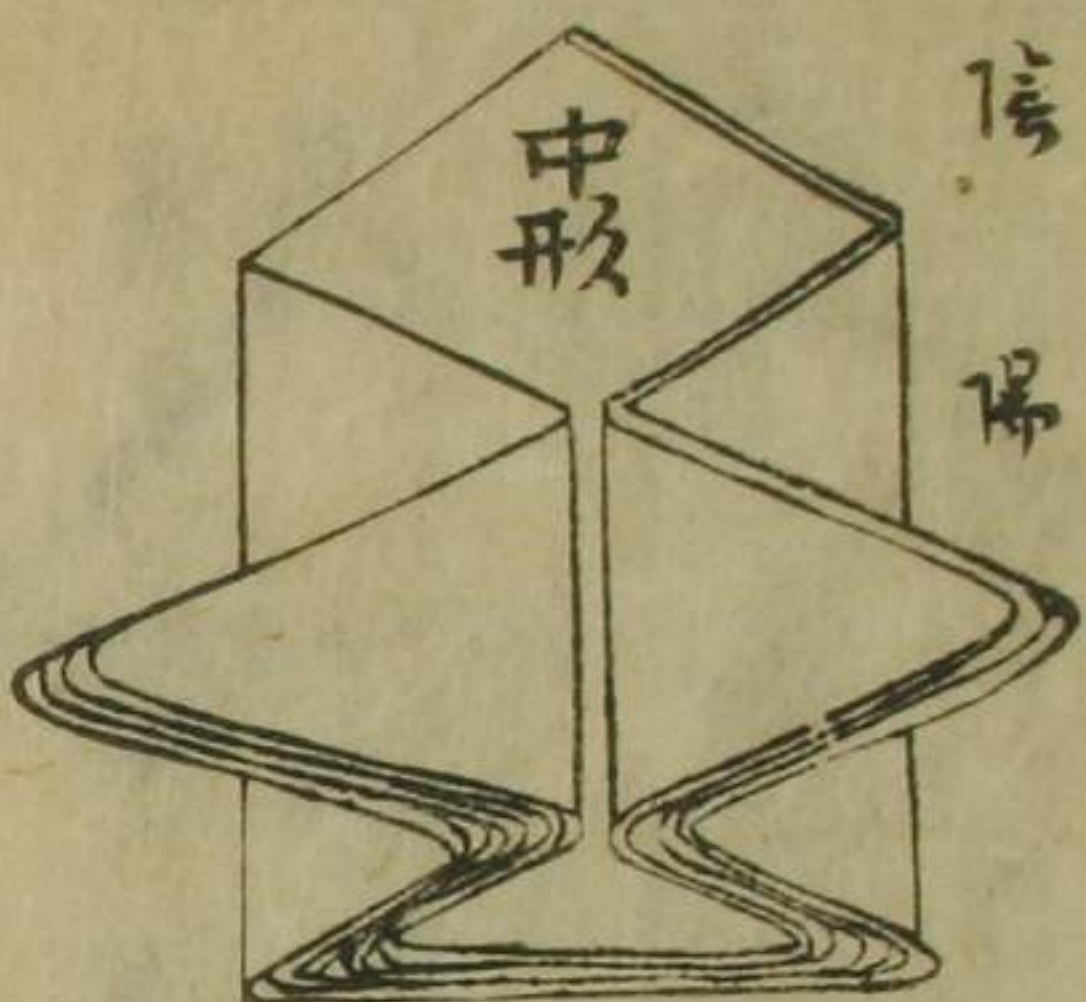
吉



二寸一寸折寸次子取寸立寸主寸中寸を少寸一寸折寸極也如寸折寸的

是寸圖寸持寸寸寸と寸也寸取寸立寸主寸中寸を
 折寸極寸上寸之寸用寸一寸四角寸成寸り
 信寸陽寸共寸成寸寸寸や寸信寸

○中形折折極を四角の隅より隅を
之角の形一又寸右寸折寸極を合寸也寸之寸角の形一上寸より寸下寸



信 陽
 中を定めぬ左右を各々四つ別表申せ申中（折付）
 二圖のこしーの信陽折付のこ

最ふ折一大小折形を、上を陽
 を信を折半り也この中形最ふ信
 とひよ又美味と只傳

○小形の折形を布巾の半折の方両隅を二つは折又布の



信 陽
 隅を両隅を二つは折四角の形一の四角を四重
 の隅二重より中の隅を四重の隅の一重

二のちのち又一隅を合せ折付二重よりこ
 ちの隅を八重よりより一重よりより
 折付折付両隅を合す是ハ之角の成こ
 信を信陽を折折形也折の信折
 折形上ノ
 重を信三枚より
 下ノ重を信八枚より

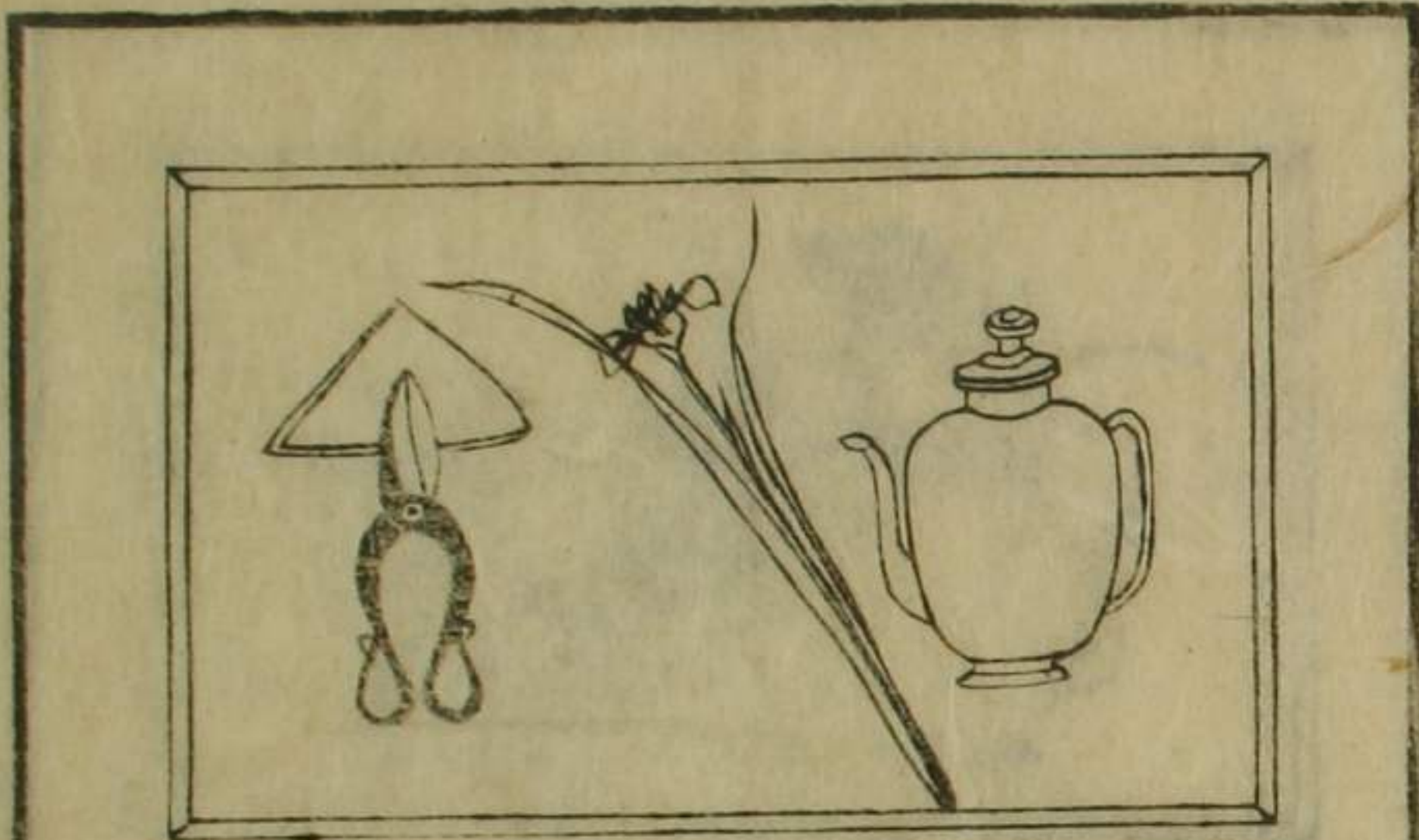
折せし二重後は陽折折せし二重半々也此折形
を常例折折形より何れも用ひ魚形也

○此折形常例は用ひるも不作と花を無と並に並折る

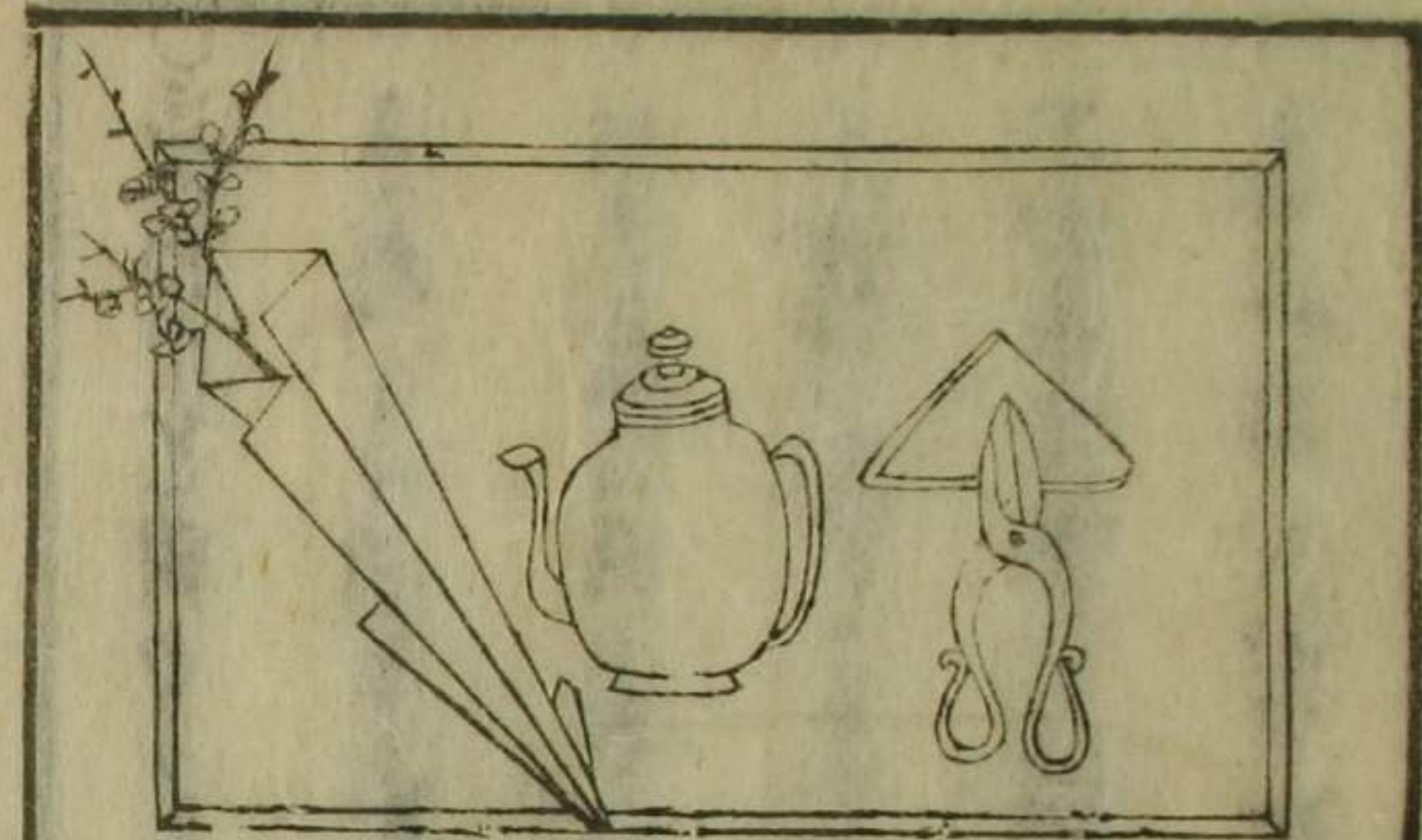
○花盒の布巾を子とせりも扱サく此折形を本へ折る
又本折とく之角は折る花を折下り半々並花を生
こしめり事らも不作の口傳

(三)

○長布巾を用ひりしは之をも一尺折巾巾長二尺
二折る用ひる也之を布巾といふは之を必ず大段
折花盒は用ひ魚形也此折形を本に折し折四角は成
し右折圓折しすは左之角は折成りを折ぬる二折
の四角を隅より隅と合せ之角は折し又左右の隅を左
之角と角と也



刀式之又花盒乃三申子花を並た
 又右指と並るも或は三申子花を
 並た又狭と並右より指と並
 此も圖式^{ツシキ}内何れを用ゆるも
 若し加し寸
 ○花を客より心むれば花を皿の茶の

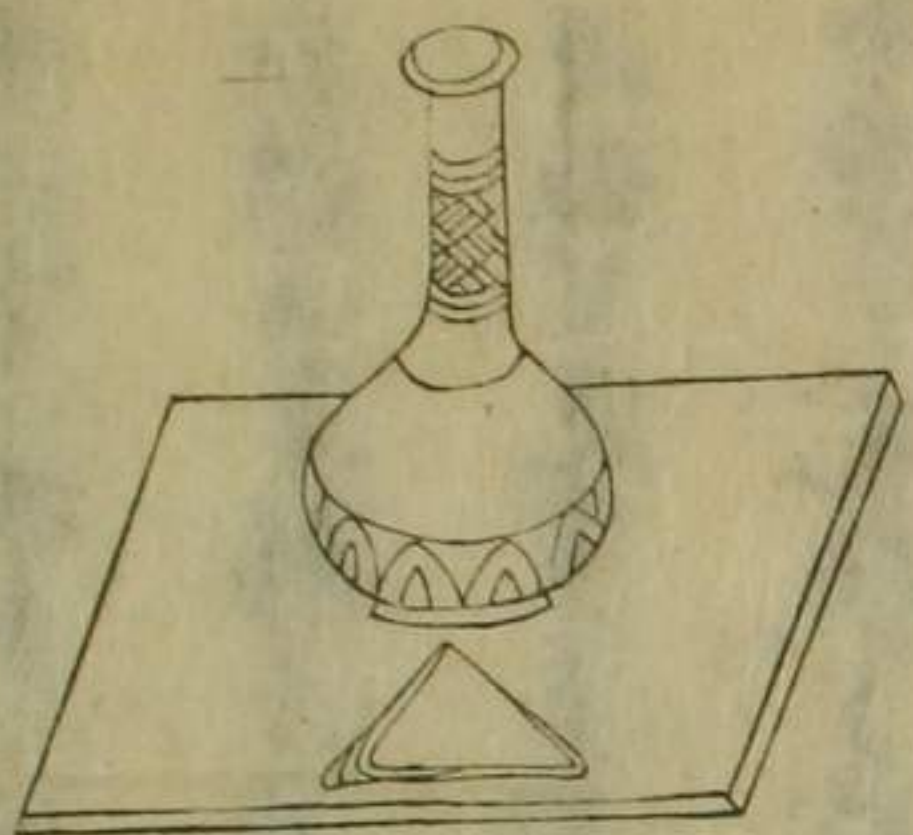


花盒并好圖式
 ○花盒は花を置くも人より花を
 心むも圖式好しく花を置く
 右指と並右好方より布巾を掛る
 並上より狭と並下より好方より花
 をより背より並之をも常例



方と客(向)をも書す處一客(向)手
 と掛る禮を形して交(向)一見物
 此客(向)へ見物の客も禮を形し
 ち花(盆)と書すも茶(煎)より
 床(前)よりす(向)へ花(盆)と床(前)の
 坐(向)よりす(向)へ茶(煎)とす(向)へ

坐(向)よりす(向)へ茶(煎)とす(向)へ
 坐(向)よりす(向)へ茶(煎)とす(向)へ



の形と見(向)は使(向)客(向)居(向)方(向)の床
 此(向)坐(向)の條(向)も一坐(向)は布(巾)を右
 の手(向)よりす(向)へ茶(煎)の手(向)の掌(向)は坐(向)初(向)め
 の形(向)と書(向)す(向)へ茶(煎)の手(向)の掌(向)は坐(向)初(向)め

持(向)茶(煎)湯(向)持(向)白(巾)紗(向)好(向)しく扱(向)く處(向)一坐(向)は布(巾)を右
 持(向)茶(煎)湯(向)持(向)白(巾)紗(向)好(向)しく扱(向)く處(向)一坐(向)は布(巾)を右

折形より折形より花器の形より並之次より花器を客
 居形より押おし花の色を客居にも右折形より花器
 花形より後より色器を花器の内より並枝葉花の
 花器に見生る花器と考へ初めより並半より花器を用
 由器より花器を花器と考へ初めより並半より花器を用
 一より花器より花器と考へ初めより並半より花器を用
 一より花器より花器と考へ初めより並半より花器を用

(五九)

潤ひより花器の形より花器の形より並之次より花器を客
 居形より押おし花の色を客居にも右折形より花器
 花形より後より色器を花器の内より並枝葉花の
 花器に見生る花器と考へ初めより並半より花器を用
 由器より花器を花器と考へ初めより並半より花器を用
 一より花器より花器と考へ初めより並半より花器を用

もむすししくは並一又は花並を二守し先ツキ突おし
五寸ホト後ト押下るや寸並ヲシヤクの席生持所作ニト事シヤシ系し
あしくも枕長手疎をいさるる魚一

○床前を退く時を花並を引去る魚一掛しめられ
人物シフツ中の或を書シヨルおれりる禮を引去る魚一得し口傳

○席生持時を花並を先キ居並魚一尤生る何にせ

揚る生る式も口傳

○前後を重床に用む板床に用む寸花生を床に並一
並ツシキと圖式持し一圖或は布巾を打添る何處にも布巾
扱スに持時布巾を圖持し一重一並の何れをいふしとを
志し一けん事ぬの圖之みの圖はまよひする先キ一布巾
を並魚一寸生る式前よ記するごとし一

○明床アキト明光アキラカ棚タナ棚タナ下の席生を余真之ともいふ
少しは花盆の如き扱ひ置りて心得也

○床柱の掛花生を余真之何寸花盆を半分と拵分
よ柱の柱は並置一又は床柱の面を掛しその極子を
足格花盆の如き置り置りて花盆の裏を少し
並引次は布巾扱にせし之角は掛花盆の如き扱の

(三)

前より並之次は花盆を客居の方へ押おし花を散生す
○花を生けりての移を右様より布巾を左より持て移し流
しその如き扱也左様より布巾を右様より持て移し流
用心やめを扱ゆハ何處もなほしよと並し花盆を少
し後押下次床前アキマの如き扱とあはれ人合禮を仰す
也一床柱並花盆を少し置りて心得也

○明床好席生まじ席乃柳子より心得まじ先^{ツモ}之の
床好花を克見人々好明く感くも賞くまじ生^{ツモ}を記
之好^{ツモ}血^{ツモ}を以移^{ツモ}花好く起^{ツモ}右^{ツモ}振^{ツモ}を^{ツモ}席^{ツモ}乃^{ツモ}柳^{ツモ}子
より心得まじ寸^{ツモ}魚^{ツモ}より余^{ツモ}真^{ツモ}好^{ツモ}花^{ツモ}を^{ツモ}之^{ツモ}乃^{ツモ}花^{ツモ}を^{ツモ}克
見^{ツモ}感^{ツモ}くまじまじ人^{ツモ}同^{ツモ}列^{ツモ}乃^{ツモ}重^{ツモ}くまじ生^{ツモ}ると^{ツモ}感
一^{ツモ}好^{ツモ}真^{ツモ}也^{ツモ}心得^{ツモ}也^{ツモ}

三十一

○明先を多分床好^{ツモ}偏^{ツモ}好^{ツモ}方^{ツモ}子^{ツモ}附^{ツモ}帯^{ツモ}く^{ツモ}之^{ツモ}乃^{ツモ}東^{ツモ}之^{ツモ}花^{ツモ}血^{ツモ}を
血^{ツモ}と^{ツモ}其^{ツモ}書^{ツモ}院^{ツモ}乃^{ツモ}柳^{ツモ}乃^{ツモ}内^{ツモ}身^{ツモ}を^{ツモ}好^{ツモ}く^{ツモ}後^{ツモ}子^{ツモ}血^{ツモ}一^{ツモ}
○棚を多分床の信好方^{ツモ}なり^{ツモ}一^{ツモ}乃^{ツモ}花^{ツモ}血^{ツモ}を^{ツモ}血^{ツモ}と^{ツモ}信^{ツモ}好^{ツモ}方^{ツモ}
の^{ツモ}も^{ツモ}偏^{ツモ}好^{ツモ}方^{ツモ}を^{ツモ}も^{ツモ}客^{ツモ}在^{ツモ}好^{ツモ}方^{ツモ}子^{ツモ}血^{ツモ}魚^{ツモ}一^{ツモ}又^{ツモ}柳^{ツモ}下^{ツモ}も
一^{ツモ}好^{ツモ}帯^{ツモ}く^{ツモ}也^{ツモ}
○柳好^{ツモ}血^{ツモ}花^{ツモ}書^{ツモ}院^{ツモ}乃^{ツモ}柳^{ツモ}乃^{ツモ}子^{ツモ}花^{ツモ}を^{ツモ}移^{ツモ}す^{ツモ}乃^{ツモ}疏^{ツモ}く^{ツモ}移^{ツモ}
ヒヤツイ

寸^七盤^七若^七膝^七を^七立^七る^七所^七ハ^七客^七居^七方^七の^七膝^七より^七立^七入^七
し心得^七を^七地^七を^七以^七て^七立^七る^七也^七

以上花^七を^七席^七生^七式^七早^七次^七に^七進^七出^七告^七借^七儀^七中^七の^七
式^七を^七記^七す^七も^七は^七法^七眼^七是^七心^七新^七一^七滴^七を^七光^七君^七士^七用^七意^七
進^七出^七告^七借^七式^七安^七永^七十^七丑^七年^七四^七月^七土^七日^七平^七安^七洛^七東^七双^七林^七寺^七
閑^七何^七跡^七よ^七い^七ふ^七初^七日^七初^七号^七披^七講^七作^七式^七を^七記^七す^七也^七

親^七お^七と^七定^七め^七事^七々^七之^七の^七例^七よ^七し^七同^七の^七年^七々^七四^七月^七子^七祭^七儀^七
初^七日^七社^七中^七執^七事^七各^七々^七禮^七服^七之^七天^七明^七三^七卯^七年^七東^七武^七（^七夫^七坊^七下^七向^七
社^七前^七江^七別^七名^七根^七尾^七列^七名^七古^七登^七之^七別^七名^七田^七在^七別^七漢^七松^七同^七天^七王^七
同^七登^七并^七右^七向^七社^七中^七を^七以^七て^七頼^七を^七供^七初^七日^七々^七五^七井^七天^七王^七の^七
社^七中^七向^七不^七備^七荷^七山^七又^七お^七い^七ふ^七大^七會^七具^七以^七て^七布^七見^七常^七極^七中^七の^七
社^七中^七向^七弘^七慈^七寺^七よ^七お^七い^七ふ^七大^七會^七具^七以^七て^七大^七會^七中^七の^七前^七

今頭行事集来志の規をせしむるに依りて式部
 天明四辰年より東武より一泉寺持金交是心新の
 席向より持席より右の初より右の持席より
 京の双林寺持席は通りは初より左の例を以て
 持式部よりする社中持席より二行事持席より
 持より持付よりなり

三

各東雙林寺開向の席之

○賜平持用志花盆持付掛之

箱入花譜一帛香呂多持事

○床着持用志及掛之及生花

文卷一帛扇子多持事

○列座持用花譜方花譜懐中事

列列列		行備
知光庵		桂 救樂
會		松田上方
頭	田居 千輪館 二光庵	

又其行事より授るるすべし又其世所破向好一皮中懐守し之
是字一又其行事より授るる之若懐文即不懐文をよむ
人懐守し之是字一又其行事より授るる之以運るもの
よはし之を授るべし

○社中列座持上先掛より方掛より所より受其箱持切を解
内を足すも儀常新よ持床前進と文意を脇(書)次子

仮花を薦板より信持方(書)並仮掛よりを逃し
此信持方より並次より掛よりをゆかり掛より
すゆし次より逃し之を掛よりを空箱入紐を
持ひ床持信持方持偶より並次より仮花をすの如く
並し並し礼をゆし之をゆすゆす次より花を並し行事
より師より授る師更に床前より進し仮花を揚(下)花を四

中内より並外坊花子生之如花生御ハハ花を無を行奉
一伝し次は文章を並一並有キ花子傳寸次は献香後若
を累すりり次は花譜後文章抄上は指の次は破白
をよむ又は懐文をよむ之床前は進之礼を仰しそ
よむ破白抄時を教供所文章抄上をよむし一
懐文抄時を今改修内よりよむ一床前を少しあり

高社中坊方へ向るよむ如次は列座お禮す一お礼
早より各々退書祭より向る也

○影供敬白

支那懐の草木を子種ハシセイ菊性有りこはるも孰押其温
持合和ハク向寸こはると形一今ヤを花瓶に移し
自己持形を觀カキリ精神持更潔チミクセをそふしそり

松月堂古流養花社知事と御座り信陽五山社形客
と多かり事あはれ御座り御座り御座り御座り
席建と設け送送は先生御座り心第一御座り
函魂と振ナウに同志の連社共同音社鄙決と
二更も花露社御座り味と軟御座り御座り
款寸預預くくを他情社御座り感御座り一乃社精情と

松月堂の愧愧らくを奴奴御座り御座り御座り御座り
を競競んとあがり一乃御座り十年四月十日

松月堂古流山統 社中敬白

○惟文之狀

神を祀禮を了す寸御座り御座り御座り御座り
古流養花社御座り御座り御座り御座り

赤川の秘事と該す魚くく寸縦令の川半りさ
花乃中階次とさる執心階情よをいさ
と要と該す魚くく寸縦令の川半りさ
門社鶴花の會遊と設け遠化元師の幽魂
向じ異口以着中情文如件

三

